

令和2年度決算に係る  
定期監査調書

令和3年5月

農業試験場

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等 .....	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 .....	1 頁
3	職員の定員、現員調べ .....	1 頁
4	役付職員の調べ .....	1 頁
5	主な事業に関する調べ .....	2 頁
6	収入証紙取扱調べ .....	4 頁
7	現金の取扱状況 .....	4 頁
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
8	財産に関する調べ .....	5 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
9	財産の貸付け及び使用許可調べ .....	7 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
10	借受不動産明細調べ .....	7 頁
11	職員駐車場の管理状況調べ .....	8 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
12	寄附物件の受納状況調べ .....	8 頁
13	備品の処分状況調べ .....	8 頁
14	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ .....	8 頁
	(1) 亡失、損傷の報告状況	
	(2) 物品確認の実施状況	
15	事業別予算執行状況調べ .....	9 頁
16	農業機械の管理状況 .....	10 頁
17	生産物(品)に関する調べ .....	11 頁
18	試験研究調査事業別実施状況調べ .....	12 頁
○	意見・要望等 .....	24 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1)指摘事項 該当なし

(2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和3年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備 考
	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	
定 員	1	1	18	18	2	2	21	21	
現 員	1	2	18	18	2	2	21	22	0 休職 事務職員1名減 (会計年度任用職員1名増)
	(1)	(1)	(5)	(5)			(6)	(6)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	1	0	0	0	0	0	1	
臨時的任用職員							0	0	
会計年度任用職員	1				17	16	18	16	ほ場管理専門員1名、農業技術員16名 事務員1名

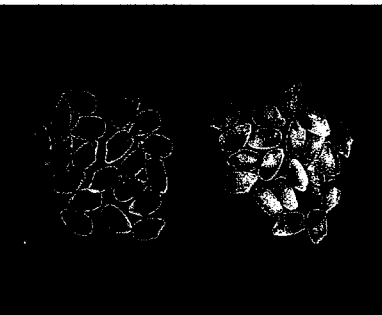

4 役付職員の調べ

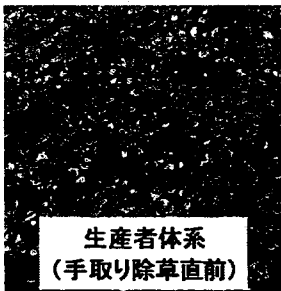
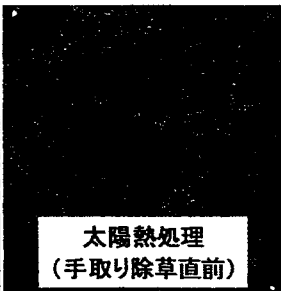
(令和3年5月1日現在)

職 名	氏 名	在職期間		備 考
		年	月	
場 長	坂東 悟	1	1	(病害虫防除所)
作物研究室長	高木 瑞記磨	1	1	出納員
環境研究室長	長谷川 優	6	1	(病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	宮本 雅之	0	1	
課長補佐	大塩 真司	1	1	出納員、(病害虫防除所)
作物研究室上席研究員	福見 尚哉	3	1	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	一般財源	その他
「星空舞」のブランド化を支える研究	3,466			3,466	
将来ビジョン	1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉を開く (4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍(スマート農林水産業の推進等)				
令和新時代創生戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ①農林水産業の活力増進 ○県育成品種「星空舞」等のブランド化により、稲作の収益性向上を図ります				
政策項目	2 しごと新時代づくり 「星空舞」などブランド化推進と特A・種子条例制定などでコメづくり支援				
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「星空舞」の品質・食味の高位平準化をはかり「星空舞」のブランド化を支えること。</li> </ul> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地32ほ場等のデータを解析し、収量・食味・品質を一定程度以上確保するための標高区分別の生育指標を明確にした。</li> <li>前年に比べ、高標高まで作付拡大を可能とする検討を行った。</li> <li>現地の主流である基肥一発施肥の適応性と、分施肥量の減肥について検討した。</li> <li>収穫適期指標について、精度の高い出穂後有効積算気温による検討を行った。</li> </ul> <p>イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「星空舞」ブランド化推進協議会生産部会・販売部会において本事業を活用し、特に、生産部会内の連絡調整を主体的に実施し、地域研究会であるJA、農業改良普及所等とも連携を密にして活動を展開した。</li> <li>作柄検討会や栽培手帳の作成など、関係機関や生産者に適宜適切に情報を周知した。</li> </ul> <p>ウ 成果及び効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「星空舞」が1,036ha(前年366ha)で作付され、高温条件下において、品質は良好で、1等米比率は約70%であった。(コシヒカリ1等米比率は30%)</li> <li>収量・品質・食味の安定を目的とした標高別生育指標や基肥窒素の減肥、収穫適期指標などを改訂した栽培手帳や栽培指導指針により、本成果を関係機関や生産者へ周知した。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年の「星空舞」の作付面積は約1,150haとなり、日本穀物検定協会食味ランキング特A取得について現場から強く要望されており、本出品にあたってのサンプル選抜などについて早急の手法確立が必要である。</li> </ul>					
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>星空舞</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コシヒカリ</p> </div> </div>					

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	一般財源	その他
有機栽培技術開発試験	2,486			2,486	
将来ビジョン	1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉を開く				
令和新時代創生戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ①農林水産業の活力増進				
政策項目	2 しごと新時代づくり				
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「環境にやさしい農業」の推進のため、有機栽培技術の確立及び技術の普及を図り、鳥取の豊かな自然環境の中で生産される特色ある有機農産物や特別栽培農産物等の生産振興に資する。</li> </ul> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>(1) 県内の有機栽培農家の実態を調査・検証し、優良事例及び現場課題を収集する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲作における早期湛水による除草事例（3事例）を収集。</li> </ul> <p>(2) 収集した優良事例及び課題をもとに、農家を取り組みやすい技術メニューを確立、拡充する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イトミミズを利用した除草対策技術の確立のため、イトミミズ類生息数を早期に増加させ、安定的に維持する入水時期及び施肥方法を検討した。</li> <li>ラッキョウ有機栽培における除草対策として、既存の簡易除草具の中から除草効果が高く、省力的な除草具の検索を行った。</li> <li>エゴマの有機栽培条件における栽培法確立のため、若桜在来種の収穫適期を検討した。</li> </ul> <p>(3) 確立した技術を実証・展示し、現場への速やかな普及を図る。あわせて、難航している農家への技術支援も行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地ほ場において夏まき露地野菜における太陽熱処理法による除草効果を実証・展示し、本除草技術の実用性を評価した。</li> <li>生産者の栽培技術向上を図るため、イトミミズを利用した除草対策技術及びエゴマ栽培に関する研修会を実施した。</li> </ul> <p>イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者を対象に研修会を実施し、技術の速やかな普及を図った。</li> </ul> <p>ウ 成果及び効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数年調査した早期湛水条件下におけるイトミミズ類生息数データから、生息数変動の推定モデルを作成した結果、長期的な生息数は4万頭/m<sup>2</sup>前後を維持することが明らかとなった。</li> <li>らっきょう栽培における除草対策において、従来の溝切り器よりも除草効果が高く、作業時間が50～80%程度、省力可能な除草具を選定した。</li> <li>エゴマ栽培試験において、エゴマは脱粒性が高く、収穫適期が短期間であることが明らかとなった。</li> <li>夏まきニンジンの太陽熱を利用した雑草対策は、生産者体系と比較して、除草作業時間が著しく短いこと及び収量が多かったことから、実用性が高いと判断された。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>生産者体系 (手取り除草直前)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>太陽熱処理 (手取り除草直前)</p> </div> </div> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象条件等に左右されやすい有機栽培に関しては、単年度データのみでは、技術の普遍化が十分でない。年次変動や現地ほ場での適応性等を含め、引き続きデータ蓄積を行う。</li> </ul>					

6 収入証紙取扱調べ

有・ 無

7 現金の取扱状況

(1) 現金取扱状況

(令和3年3月31日現在)  
(単位:円)

収入科目(節)	収入金額(円)	件数(件)	備考
生産物売払収入	136,950	192	場内販売
合計	136,950	192	

(2) つり銭の状況

(令和3年3月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)	0
--------	---	----------	---

8 財産に関する調べ  
 (1) 公有財産  
 ア 土地

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m <sup>2</sup> )	
計	農業試験場敷地	鳥取市橋本260外	119,297.25	0	R			R	119,297.25	0	
			119,297.25	0	R	0.00	0.00	R	119,297.25	0	
普通財産	なし				R				0.00	0	
計			0.00	0	R				0.00	0	
合計			119,297.25	0		0.00	0.00		119,297.25	0	

イ 建物

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m <sup>2</sup> )	
行政財産	農業試験場本館 他	鳥取市橋本260外	5,692.27	0	R3.3.15	255.45		新築及び建替	一	5,939.95	0
			5,692.27	0	R3.3.15	-7.77	0.00	撤去	R	5,939.95	0
普通財産	なし				R				0.00	0	
計			0.00	0	R				0.00	0	
合計			5,692.27	0		263.22	0.00		5,939.95	0	

ウ 山林

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産 の区分	土地の権利区分	機関名又は施設名等	所在地	土地の面積等				立木の推定蓄積量		本年度末 現在高 (m)	
				前年度末 面積(m <sup>2</sup> )	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	増減理由	登記 年月日	本年度末 面積(m <sup>2</sup> )		前年度末 現在高(m)
行政財産	県有	農業試験場	鳥取市橋本291-1外	3,508.95	R			R	3,508.95		0.00
				3,508.95	R	0.00		R	3,508.95	0.00	0.00
普通財産	なし				R			R	0.00	0.00	
計				0.00	R			R	0.00	0.00	
合計				3,508.95		0.00	0.00		3,508.95	0.00	0.00

エ 動産 該当なし

オ 物権 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案等) 該当なし

(ア) 異動状況

(イ) 出願及び登録の状況

(ウ) 活用の状況

キ 有価証券 該当なし

(2)金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・  無

(令和3年3月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		受入額	払出額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 47,446	円 142,700	円 137,540	円 52,606	
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシーケー ポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリ ペードカード	0	0	0	0	
図書カード	1,000	0	0	1,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	52,246	142,700	137,540	57,406	

イ タクシーチケットの保有状況

該当なし



9 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物  
ア 土地

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H31.1.21	H16.3.31	H31.4.1~R6.3.31	月額・年額 7,480	7,480	鳥取市商業街117-3 中国電力(株)鳥取営業所		
	電力供給に伴う配電線施設設置	鳥取市橋本260	共架電柱 5本	R1.6.18	R1.6.18	R1.6.18~R6.3.31	月額・年額 7,500	7,500	鳥取市商業街117-3 中国電力(株)鳥取営業所		
	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H29.2.6	H14.4.1	H29.4.1~R4.3.31	月額・年額 9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株)鳥取支店		
行政財産	電気通信線路設備設置	鳥取市橋本260	共架電柱 3本	R1.6.18	R1.6.18	R1.6.18~R6.3.31	月額・年額 4,500	4,500	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株)鳥取支店		
	ソフトバンク携帯電話基地局	鳥取市橋本奥ヶ谷2 59番地9	16.0m2	H30.2.6	H15.10.24	H30.4.1~R5.3.31	月額・年額 18,700	18,700	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株)鳥取支店		
計								47,180			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								47,180			

イ 建物

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1.55m2	H29.4.1	H29.4.1	H29.4.1~R4.3.31	月額・年額 19,165	19,165	米子市両三柳2887-2 ダイドーウエストベンディング(株)		
計								19,165			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								19,165			

(2) 物品

該当なし

10 借受不動産明細調べ

該当なし

11 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

(2) 減免の考え方

該当なし

(3) 使用料の見直し

平成31年4月1日実施

12 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

13 備品の処分状況調べ

(令和3年3月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不用決定 年月日	売却棄却 の別	処分		備考
				売却方法・売却理由	処分年月 日	
動力運搬車 (クボタSP-2HDSF)	H9.10.1	R2.10.8	売却	更新機導入業者に 引き取りしてもらう	R2.10.8	0
白ねぎ根葉切り皮剥ぎ機 (MTC-2000D)	H14.1.21	R3.2.3	売却	産業廃棄物処分量 者に引き取りしてもらう	R3.2.3	0
合計						0

14 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

有・無

(2) 物品の照合

有・無

15 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(令和3年3月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)5箇所を修繕	

目 名	農業総務費	(令和3年3月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
スマート農業総合対策事業	「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」に係る旅費および需用費	
農林水産試験場臨時的調査研究事業	「星空舞」品質・食味不良地域における土壌化学性の実態把握」ほか4事業に係る需用費(消耗品費)	

目 名	農作物対策費	(令和3年3月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名	農業試験場費	(令和3年3月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
「星空舞」のブランド化を支える研究	「5 主な事業に関する調べ」に記載 「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
現在(いま)と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
主要農作物原採種事業	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
水田農業経営の効率化に関する調査研究	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
勤から観へ! ICTを活用した農業生産技術の確立試験	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
有機栽培技術開発試験	「5 主な事業に関する調べ」及び 「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
水稲・麦・大豆の高品質・安定生産を目指した病害虫防除技術の確立	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
新農業の適用に関する試験	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
転作野菜の導入を促進する排水等対策技術の確立	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
土壌保全安全対策技術確立事業	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
水田作物品種育成試験	「18 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 (日)	修繕費等 (円)	左の主な内容	備考
トラクター	キセキ NT43FFUGCY	H25.6.28	耕地整地、 代かき	86	242,382	前輪交換他	
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	21	0		
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	21	31,845	着脱ロック・ボルト・ パッキン修理	
トラクター	クボタ GL367QBSMAP	H10.4.27	"	44	49,676	オイル漏れ修理	
種子用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	0	0	糯米作付けが無いため使 用なし	
種子用コンバイン	クボタ ER220SPGW	R1.7.25	"	8	0		
コンバイン	ヤンマー GC219	H17.6.30	"	2	0		
コンバイン	ヤンマー AE330 XJU	H23.8.31	"	12	0		
コンバイン	ヤンマー YH333	H30.8.27	"	3	0		
コンバイン	ヤンマー YH323XH	R2.7.29	"	2	0		令和2年度購入
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	0	0		
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	1	0		
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	収穫物等運 搬	8	41,910	爪セット・ピリン一式修 理	
テラー	クボタ TD700	H18.5.8	"	12	0		
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	31	0		
動力運搬車	筑水キャニコムELL801KZP W	H9.10.1	"	0	0		
小型特殊自動車	ロードガロ SL620JBA	H27.7.23	"	68	69,080	バンク修理、フーヤー・ ベルト交換	
小型特殊自動車	筑水キャニコム ELL803MP W1	R2.5.22	"	72	0		令和2年度購入
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、 畦立	4	0		
耕うん機	クボタ TRS70-US	H28.7.25	"	2	0		
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄、 畦立	0	0		
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	4	0		
管理機	エースローター IKSAR600	H3.7.9	"	0	0		
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	9	0		
管理機	ヤンマー RK750	H28.1.29	"	14	0		
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	11	0		
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	4	8,250	ウエコミカンキャップ、 修理一式	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0		
乗用田植機	ヤンマー YR4J-Z	R1.5.14	"	16	0		
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	4	0		
乗用田植機	クボタ NSU67-SP2, SJ -6N	H23.5.23	"	8	0		
乗用田植機	ヤンマー YR6D, XU-Z	R2.5.15	"	4	0		令和2年度購入
歩行田植機	クボタ JP20-HD	R3.3.10	"	0	0		令和2年度購入
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	8	0		
バインダー	ヤンマー YB65	H1.9.18	"	1	0		
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	1	0		
普通型コンバイン	ヤンマー YH400	H30.7.24	大豆刈取	7	0		
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用 播種	0	0		
フォークリフト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運 搬	54	114,873	特定自主検査 整備一式	
フォークリフト	トヨタ 02-8FGL10	R2.7.15	収穫物等運 搬	27	0		令和2年度購入
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝 立、マルチ	0	0		
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	2	0		
シリンダカッター	CX-201S	H17.9.30	薬用カッ ター	3	0		
自走式動噴	VSC457F-10	H27.1.16	作物防除	0	0		
合計				574	558,016		

(令和3年3月31日現在)

17 生産物(品)に関する調べ

生産部門	品名種類	作付面積 (a)	生産計画 数量 (kg)	生産数量		場内 使用 (kg)	処分量						分類 換 (kg)	差引 残 (kg)	備 考		
				前年度か らの繰越 (kg)	生産 購入 (kg)		計 (kg)	売却 数量 (kg)	売却 金額 (円)	目的外使用 数量 (kg)	目的外使用 金額 (円)	廃棄 (kg)				乾燥減 数量 (kg)	乾燥減 金額 (円)
水稻	原種	275	5,255	6,070.0	4,196.0	10,266.0	543.0	2,195.0	1,138,595				661	0	0.0	6867.0	
	一般玄米	337	6,127	0.0	26,348.0	26,348.0	0.0	26,348.0	5,400,538				0	0	0.0		
麦類	原種	90	1,160	568.0	450.0	1,018.0	28.0	325.0	112,612							665.0	
	一般																
大豆	原種	94	1,212	1,396.0	831.0	2,227.0	59.0	973.0	572,611							1195.0	廃棄については経年経過の為
	一般																
小計									7,224,356								
野菜	フロコロー	4	200		186.5	186.5		186.5	35,200							0	数量単位: 40円/個 60円/個 250g/個
	白ネギ	13.2	890		820.0	820.0		820.0	157,700							0	数量単位: 100円/束 520g/束
	トマト	0.3	120		111.0	111.0		111.0	24,420							0	数量単位: 110円/500g/袋
	しょうが	0.3	40		35.0	35.0		35.0	14,700							0	数量単位: 210円/500g/袋
	ピーマン	0.3	70		65.4	65.4		65.4	21,800							0	数量単位: 100円/300g/袋
小計									253,820								
合計									7,478,176								

1 8 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年3月31日現在)

1

事業名	「星空舞」のブランド化を支える研究		担当室別	作物研究室
実施計画期間	R2年度 ～ R4年度		(予算額) 支出済額	(3,503,000円) 3,465,500円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
「星空舞」の品質・食味の高位平準化をはかり「星空舞」のブランド化を支えること。	現地	県内32ほ場の生育状況を調査、解析	「星空舞」の品質・食味を高水準で維持するための生育指標を明らかにする。	5 主な事業に関する調べに記載
	場内	10a	栽植密度の相違により、幼穂形成期までの生育を制御する技術を明らかにする。	
	現地 場内	3ほ場(40a) 10a	平坦地における基肥減肥による生育制御技術を明らかにする。	
	場内	7a	良食味となる葉色診断法や穂肥施用技術を確立するために、葉色と穂肥施肥量との関係を把握する。	
	現地	1ほ場(32a)	基肥一発肥料体系の窒素施用量について検討する。	
	場内	10a	生育量を用いた稲体窒素吸収量を把握するための簡易栄養診断法について検討する。	
	現地 場内	5ほ場(80a) 10a	場内で得られた収穫適期の目安を、現地ほ場で検証する。	
	現地	23ほ場(300a)	早期に収穫した場合の、品質や収量歩留まりを把握し、早期収穫の可能性を探る。	

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

2

(令和3年3月31日現在)

事業名	現在(いま)と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H30年度 ～ R2年度		(予算額) 支出済額	(980,000円) 980,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1 「きぬむすめ」食味の高位平準化に向けた技術開発	場内 現地 鳥取市青谷町	1ほ場(11a)  1ほ場(20a)	1 低食味改善による良食味米の生産安定 ※高地力ほ場における窒素施肥法による食味改善技術の確立	(成果) 1 低食味改善による良食味米の生産安定 ・良食味米となる穂肥窒素施用法を明らかにし、生育量による栄養診断指標を作成した。 ・良食味となる総粒数を明確にした。  (課題) ・他の高地力ほ場への本成果の適用拡大
	場内 現地 鳥取市上段 岩美町浦富 三朝町鎌田	2a  2ほ場(40a)  1ほ場(30a)  2ほ場(30a)	2 ごま葉枯病対策 ※鉄及びマンガン資材施用による改善技術の検討	2' ごま葉枯病対策 ・「きぬむすめ」はごま葉枯病に対する感受性が高いと考えられた。 ・鉄及びマンガン施用により、ごま葉枯病の軽減が認められた。  (課題) 鉄資材の連年施用により食味が低下する可能性が示唆された。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

3

(令和3年3月31日現在)

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,357,000円) 1,356,700円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1.水稲の原原種の採種	場内	7.6a	水稲種子の純度維持のため、原原種の維持を行う。	(成果) 「コシヒカリ」20系統および「鳥姫」15系統の選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稲原種の採種	場内	102a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「コシヒカリ」、「星空舞」、「きぬむすめ」、「鳥姫」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原原種の採種	場内	3.8.a	大豆種子の純度維持のため、原原種の維持を行う。	(成果) 「タマホマレ」24系統および「サチユタカ」24系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
4.大豆原種の採種	場内・現地	132.8a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「星のめぐみ」、「タマホマレ」、「サチユタカ」、「緑だんだん」、「鳥取大山2001」について採種を行った。 (課題) 特になし。
5.麦原種の採種	現地	40a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」について採種を行った。 (課題) 特になし。



18 試験研究調査事業別実施状況調べ

4

(令和3年3月31日現在)

事業名	水田農業経営の効率化に関する調査研究		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H29年度 ～ R4年度		(予算額) 支出済額	(1,192,000円) 1,177,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 催芽粃湛水直播栽培の技術確立	場内 現地	11a 70a	湛水直播栽培のさらなる省力・低コスト化を図るため、種子コーティングを省略する催芽粃湛水散播栽培法の技術を確立する。	(成果) ・催芽粃湛水散播栽培において、鳥害防止や除草剤への影響を明らかにし、山間地での実証を行った。 (課題) 鳥害対策については継続検討し、山間地への適応性については新規課題(スマート農業)で検討する。
2. 高密度育苗栽培の技術確立	場内	6a	・高密度苗と疎植栽培との組み合わせによる苗箱数削減技術を確立する。	(成果) ・水稻高密度苗栽培におけるいもち病、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビイロウンカについて、移植時側条施用および育苗箱施用の防除効果を確認した。 (課題) 試験事例の蓄積(年次変動および地域間差の把握、他剤の防除効果の検討)
3. 収量・品質の高位安定化に向けた可変施肥技術の確立	場内 現地ほ場	17.5a 147.2a	圃場の地力や生育状況に応じた精密な肥培管理を簡易に行うため、リモートセンシングによる水稻の生育診断技術を開発する。	(成果) ・「コシヒカリ」、「きぬむすめ」においてNDVI値と生育量との間の正の相関を確認し、「コシヒカリ」についてはNDVI値による穂肥診断技術の確立の可能性が示唆された。 ・前年にスマート農機で得られたほ場特性により施肥診断を実施したところ、水稻の生育収量が改善された。 (課題) 新規課題(スマート農業)でデータ蓄積を継続
4. 中山間農業の継続のための営農メニューの構築	県内現地	2経営体	現地事例調査に基づいて中山間地の水田農業経営体が存続するための条件を明らかにし、経営展開の方向性の指標として情報化する。	(成果) 優良経営体のデータや聞き取りにより経営モデルを作成し、このモデルを基に、他で新規に白ネギを開始しようとしている集落営農法人のシミュレーションを実施したところ、冬季作業確保や比例利益が向上することから、配当金額の増加や専従者確保につながる結果となった。 (課題) 特になし。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

5

(令和3年3月31日現在)

事業名	勤から観へ！ICT等を活用した農業生産技術の確立試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H30年度 ～ R2年度		(予算額) 支出済額	(853,000円) 853,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ICT機器等を取り入れることにより、営農技術の「見える化」、作業効率向上、コスト低減を図り、経験値や勘ではなく、データやマニュアルに基づいた営農を実施することで技術の高位平準化を目指す。	作物研究室 場内 現地 環境研究室 場内 岩美町	3ほ場 8ほ場  16ほ場 69地点	1 農業気象データを活用した営農管理の「見える化」等の検討 ※水稲栽培における生育予測技術を用いた適期作業予測技術の確立 ※山間地におけるメッシュ農業気象データの適応性向上 ※病虫害被害回避を目指した農業気象データ利用の検討	(成果) 1 農業気象データを活用した営農管理の「見える化」等の検討 ・穂肥施用時期の予測精度は実用レベルであり、大規模生産者を対象とした現地実証では、適期作業につながり、生産者の評価も好評であった。 ・山間地における50mメッシュ農業気象データの利用により、気温推定値と実測値の誤差が小さくなり、その有効性が示唆された。 ・メッシュ農業気象データの利用により、イネミズゾウムシの飛来終期の予測が可能であり、現行のアメダスデータ利用に比較して予測精度が向上した。
			2 遠隔で測定するリモートセンシング技術の導入検討 ※ドローン等の生産営農等への活用技術の検討  3 将来の技術革新に対応するため、研究機関等の技術データ収集と蓄積を推進	2 遠隔で測定するリモートセンシング技術の導入検討 ・ドローンによるほ場上空からの撮影画像とイネの葉色や収穫物の玄米タンパク質との間に一定の関係が認められた。  3 将来の技術革新に対応するため、研究機関等の技術データ収集と蓄積を推進 ・水田作を中心に、各種資料作成等に使用できる画像データ（作物体、作業技術等）を収集した。県関係機関が閲覧可能な庁内LANデータベースを作成・改良し、簡易検索機能を追加した。
				(課題) ドローンによるリモートセンシング技術については継続検討が必要なため、令和3年度より新規課題で取り組んでいる。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

6

(令和3年3月31日現在)

事業名	有機栽培技術開発試験		担当室別	有機・特別栽培研究室 環境研究室
実施計画期間	H30年度 ～ R4年度		(予算額) 支出済額	(2,711,000円) 2,486,139円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県内の有機栽培農家の実態を調査・検証し、優良事例及び現場課題を収集する	場内 鳥取市 八頭町 伯耆町	水稲ほ場 3ほ場	有機栽培実践農業者を対象に、栽培実態を調査し、優良事例及び問題点の抽出を行う。	5 主な事業に関する調べに記載
収集した優良事例及び課題をもとに、農家取り組みやすい技術メニューを確立、拡充する	場内 鳥取市 岩美町 北栄町 伯耆町	水稲ほ場 5ほ場 畑作ほ場 4ほ場	篤農家の経験に基づく優良技術を、一般に利用可能とするため、普遍化を行う。現場課題を解決するための技術確立を行う。	
確立した技術を実証・展示し、現場への速やかな普及を図る。あわせて、難航している農家への技術支援も行う	鳥取市 八頭町 北栄町	水稲ほ場 1ほ場 畑作ほ場 4ほ場	確立・体系化した技術等をモデル的に場内及び現地ほ場で実証展示すると共に、現地での適応性を確認する。	

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

7

(令和3年3月31日現在)

事業名	水稻・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1, 127, 000円) 1, 127, 000円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
鳥取県の水稲 ・麦・大豆栽培 において被害 につながる病 害虫を対象に、 本県に最も適 した効率的防 除法および省 力防除法を確 立し、(1)安 定生産および 高品質化、 (2)防除の省 力・低コスト 化、(3)人と 環境にやさし い農業の推進 を図る。	場内 倉吉市 三朝町 琴浦町	20a 10a 20a 30a	1 水稻等の種子伝染性病 害の防除対策の確立 ※薬剤耐性菌の発生状況の 確認  2 イネいもち病薬剤耐性 菌発生下における防除技術 の確立 ※耐性菌の発生状況の把握 ※新規剤の効果と実用性確 認  3 ムギ類およびダイズ病 害虫の防除技術の確立  4 水稻・麦・大豆にお ける省力的病害虫防除対 策の確立 ※イネ縞葉枯病(ヒメトビ ウンカ)、イネゴ類等の効 率的防除対策	1 水稻等の種子伝染性病 害 ・原種ほ場から薬剤耐性もみ枯細菌菌が低率で はあるが検出された(今後の発生動向に注視)。  2 イネいもち病(薬剤耐性菌) ・過去3か年を含めて薬剤耐性菌は検出されな かった(防除暦編成に必要な情報を提供)。 ・新規育苗箱施用剤の防除効果を確認、情報提 供し、現場の防除暦で採用)。  3 ダイズ病害虫 ・紫斑病の薬剤耐性菌検定を実施し、極一部で 主力剤に対する感受性低下菌の発生を確認し た(今後の発生動向に注視)。  4 省力防除技術 ・ウンカ類:各種育苗箱施用剤の効果を把握し た(一部を成果情報化)。本年はトビイロウ ンカ多発生を受け、県内発生状況、被害解析等 を実施した。 ・イナゴ類:常発地において育苗箱施用剤の防 除効果を確認した。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

8

(令和3年3月31日現在)

事業名	新農業の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(881,000円) 881,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>本県の普通作物病害虫および雑草に適した新規の薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会および日本植物調節剤研究協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。</p>	<p>1 殺虫殺菌剤 場内 湯梨浜町</p>	<p>40a 20a、2ほ場</p>	<p>1 殺虫殺菌剤 殺菌剤およびその混合剤7剤(10処理)、殺虫剤およびその混合剤4剤(9処理)、非公開薬剤1剤(1処理)、計12剤(20処理)の防除効果を検討する。</p>	<p>(成果) 1 殺虫殺菌剤 新規薬剤(非公開薬剤を除く)の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)7剤(13処理)、B(実用性がある)1剤(1処理)、C(効果は低い実用性あり)3剤(3処理)、D(実用性低い)は2剤(2処理)であった。</p>
	<p>2 除草剤 場内</p>	<p>20a</p>	<p>2 除草剤 移植水稻3剤、直播水稻3剤、計6剤の防除効果を検討する。</p>	<p>2 除草剤 移植水稻2剤、直播水稻3剤、計5剤について実用可能と判定した。 移植水稻1剤について再検討と判定した。</p> <p>(課題) なし</p>

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

9

(令和3年3月31日現在)

事業名	転作野菜の導入を促進する排水等対策技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H28年度 ～ R2年度		(予算額) 支出済額	(593,000円) 593,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1.水田転換畑における排水対策診断フローチャートの作成	現地	県内全域 現地ほ場	排水田転換畑野菜栽培においてほ場ごとに適切な排水対策が実施でき、これにより経営安定に資すること。	(成果) 経験の浅い指導者や農業者が、ほ場ごとに必要な排水対策を判断できる排水対策診断フローチャートを作成した。排水性・ほ場内への流入・地下浸透の3つに大別し、それぞれのポイントについて順を追って診断できる。 (課題) 必要に応じて随時改訂する。
2.排水対策実施による白ネギ収量への影響確認	場内	13a	排水対策診断に基づいた排水対策の有無による白ネギの収量に及ぼす影響について明らかにする。	(成果) 排水対策診断フローチャートに沿った対策を施した結果、盤茎部が乾きやすくなり欠株も少なく増収を確認できた。 (課題) 特になし
3.排水対策実施によるブロッコリー収量への影響確認	場内	20a	排水対策診断に基づいた排水対策の有無によるブロッコリーの収量に及ぼす影響について明らかにする。	(成果) 排水対策診断フローチャートに沿った対策を施した結果、収穫の揃いがよく、増収を確認できた。 (課題) 特になし
4.水田転換畑に適した秋冬作型の白ネギ品種の検討	場内	6a	耐園芸試験場弓浜分場において試験された白ネギ品種について、粘質性・排水性が劣る水田転換畑での適応性を確認し、夏越しがよく、湿害に強く、収量が優れる品種を選定する。	(成果) 排「大河の轟き」および「森の奏で」が、生育・夏越し・収量に優れ、重粘質土壌の水田転換畑の秋冬ネギの有望品種であると判断した。 (課題) 新規課題(水田野菜)で継続検討

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

10

(令和3年3月31日現在)

事業名	土壤保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額)	(695,000円)
			支出済額	694,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>&lt;農地管理実態調査&gt; 地球温暖化防止と土壤肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量と変化についての調査を行う。</p>	<p>県内14ヶ所の水田、樹園地、草地（場内9、鳥取3、南部1、伯耆1）</p>	<p>土壤理化学性調査、断面調査、（18項目）、アンケート調査</p>	<p>適切な土壤管理法の確立にむけた土壤中の炭素、窒素量とその変動を把握する。</p>	(成果) 計画通り調査を実施。
				(課題) なし
<p>&lt;土壤機能モニタリング調査&gt; 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壤管理や土壤改良のための基礎資料とする。</p>	<p>県内6ヶ所の水田、畑（八頭1、鳥取1、三朝1、倉吉1、北栄2）</p>	<p>土壤理化学性調査、断面調査、（36項目）、アンケート調査</p>	<p>本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。</p>	(成果) 計画通り調査を実施。
				(課題) なし

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

11

(令和3年3月31日現在)

事業名	水田作物品種開発試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額)	(4,474,000円)
			支出済額	4,364,600円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>水稻の育成や、水稻、麦類、大豆の品種選定及び有望品種の栽培試験を行う。</p>	<p>(水稻新品種育成試験) 場内</p>	<p>(水稻新品種育成試験) 初期世代 40a 生産力検定 26a</p>	<p>(水稻新品種育成試験) 本県独自の水稻品種を育成する</p>	<p>(水稻新品種育成試験) (成果) ・3系統に鳥系番号を付与し、2系統の醸造適性を確認した。 (課題) 業務用主食品種の選抜を最優先で行う。</p>
	<p>(奨励品種等選定試験(水稻)) 場内 県内現地 6ヶ所</p>	<p>(奨励品種等選定試験(水稻)) 30a30系統・品種・区分各10a 極早生粳 3ヶ所各1系統 中生粳 3ヶ所各1系統</p>	<p>(奨励品種等選定試験) 本県育成系統をはじめ農研機構や他県、民間で育成された水稻、麦、大豆について同一条件で栽培し、本県への適応性を調査する。試験成績が良好なものについては、鳥取県産米改良協会へ奨励品種候補として提案する</p>	<p>(奨励品種等選定試験(水稻)) (成果) (1)予備調査 16系統を継続とし、13系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統をやや有望とし、1系統を継続とした。 (3)現地調査 本調査と同様の2系統を極早生および中生粳において供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題) 各熟期等区分において新配布系統を含め本県に適応性のある優良品種を選定。</p>
	<p>(奨励品種等選定試験(麦)) 場内</p>	<p>(奨励品種等選定試験(麦)) 6a 二条大麦 4系統</p>		<p>(奨励品種等選定試験(麦)) (成果) (1)予備調査 二条大麦は1系統を有望とし、3系統を再検討とした。 (課題) 新配布系統を含め本県に適応性のある優良品種を選定。</p>
	<p>(奨励品種等選定試験(大豆)) 場内 県内現地 3ヶ所</p>	<p>(奨励品種等選定試験(大豆)) 22a 9系統 各10a 中生 3ヶ所各1系統</p>		<p>(奨励品種等選定試験(大豆)) (成果) (1)予備調査 5系統を継続とし、3系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統をやや有望とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題)新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定</p>



<p>(新品種栽培マニュアル策定試験)場内</p>	<p>(新品種栽培マニュアル策定試験)</p> <p>3a</p> <p>1品種</p>	<p>(新品種栽培マニュアル策定試験)</p> <p>水稻、麦類、大豆の有望品種・系統等について、採用後の円滑な普及推進を目的とした栽培法を確立する。</p> <p>また生育概況等の情報や出穂期・成熟期予測についてHP等を活用して現場へ迅速に提供する。</p>	<p>(新品種栽培マニュアル策定試験)</p> <p>(成果)</p> <p>水稻</p> <p>「星空舞」の出穂期予測式のパラメータを決定した。</p> <p>大麦</p> <p>葉耳間長によって実用的な出穂期予測が可能であった。</p>
	<p>場内</p> <p>県内現地</p> <p>14ヵ所</p>		<p>7a</p> <p>坪刈2地点/箇所</p>

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

なし
----

(2) 監査委員事務局に対する要望等

なし
----